

清水西遺跡

遺跡番号	208-158
所在地	山形県村山市大字名取字清水西
北緯・東経	38度51分35秒・140度37分10秒
調査委託者	国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
起回事業	東北中央自動車道(東根～尾花沢間)
調査面積	2,800 m ²
受託期間	平成24年4月6日～平成25年3月29日
現地調査	平成24年5月23日～11月13日
調査担当者	植松暁彦(現場責任者)・尾形知哉
調査協力	東日本高速道路株式会社東北支社山形工事事務所・村山市教育委員会・村山教育事務所・山形県教育委員会
遺跡種別	包含層・集落跡
時代	旧石器時代・縄文時代・平安時代
遺構	土坑・谷跡(縄文時代・平安時代)
遺物	石器・縄文土器・土師器・須恵器(文化財認定箱数:22箱)



遺跡位置図(1:50,000)

調査の概要

清水西遺跡は、山形盆地北端の河島山丘陵北の、平野部から比高差約40mの小丘の山頂に立地する。今調査は、東北中央自動車道(東根～尾花沢)にかかる名取地区の発掘として、平成23年に県教育委員会の試掘調査により遺跡の存在が確認され、今年本調査を行った。

調査では、山頂部の表土が薄いことから手掘りによる表土除去を行い、調査区西・南側に古代の隠れ谷(SG1)の存在から一部重機なども用いた。その後、上層(

層上位の直上面)の遺構検出・精査に努め、縄文時代や平安時代の遺構・遺物が単発的に確認した。

次に下層の旧石器時代を調査区東側を中心に、山頂部や斜面部では深さ20～40cmの深さで石器が出土した。山頂部の石器が集中する範囲は移植ベラ、分布の薄い斜面部は角スコップなどを用いて、石器の出土層位を確認するため土層ベルトを残し掘り下げた。石器は、層位や位置を記録し、石器群のまとまりであるブロック群の成り立ちを詳細に調査した。層序は、上から順に層が黒土の現表土、層が黒砂(縄文・平安時代)、層上位が黄色砂の肘折火山灰(約1万年前)、層中・下位が黄色土(旧石器時代の火山灰等)で石器が多く出土する。

遺構と遺物

上層(平安時代・縄文時代)

平安時代:小土坑と谷跡などから須恵器坏や土師器甕が出土した。概ね9世紀前半(1200年前)と考えられる。

縄文時代:表土や小判型の土坑から縄文土器や石器が出土した。土器の微隆起線状の文様から、県内でも数少ない関東地方の野島式併行期の早期後葉(約6,000年前)と推測された。他に黒曜石製の石鏃や真岩製の石ベラ、一般に集落遺跡で出土する凹石が多く出土した。



写真1 調査区全景(北から。写真奥が村山平野)



写真2 SK201土坑(落とし穴)発掘状況(南から)



写真3 出土した縄文土器



写真4 SP9ピットの須恵器杯の出土状況(南から)



図1 上層(縄文・平安時代)遺構配置図



写真7 下層(旧石器時代)山頂の石器出土状況(西から)



写真8 下層(旧石器時代)の精査状況(東から)



写真9 出土石器のまとめり(ブロック)状況(東から)



写真10 出土したナイフ形石器・石刃



写真11 出土した局部磨製石斧(左)と台形石器(右)